

予習確認プリント

学年：\_\_\_\_\_ 学籍番号：\_\_\_\_\_ 名前：\_\_\_\_\_

・順応とは、どのような仕組みのことですか？暗順応と明順応の違いは、どのような点ですか？

・「光束」とは、どのようなものですか？「光束」と「光度」は、どのような関係にありますか？

・「照度」とは、どのようなものですか？「照度」と「光束」は、どのような関係にありますか？

・「輝度」とは、どのようなものですか？「光度」との違いは、どのような点ですか？

※予習の段階に比べて、授業を聞き終わった段階では、何がわかりましたか？

第 8 回 視覚／照度と輝度 (教科書 pp. 8 ~13)

※おおよそ板書の 1 面が, 配付資料の半ページに相当

◎ 光環境の全体像

└─ 1 光環境の捉え方と評価→様々な指標 (基本, 物理的なお話)

|

└─ 2 よりよい光環境の作り方 ┌─ 日光 (太陽)

|

└─ 人工照明

|

⇒照明計画

|

↑ 可視光線を全体で捉える

-----

| ↓ 可視光線を波長別に捉える

|

└─ 3 色環境

**補足** 可視光線 →教科書 p. 9 の図を参照

→赤外線, 可視光線, 長波, 短波などについては, 前期配当の「建築環境工学 I」の第 13 回目 (07 月 09 日実施) の配付資料 (p. 103, p. 105) も参照

0 今日の内容

1

2

## 1 人間の感覚（視覚）と光環境

(1) 目の仕組み→教科書 p. 8 の上の図を参照

(2) 明視（設計）→ものがよく見えるか見えないか？

- ・明るさ：視対象が明るい
- ・対比：視対象と背景の対比（特に輝度対比）が大きい
- ・色：視対象の輝度が同じでも、色相や彩度が違えば区別が可能
- ・大きさ：視対象の視角が大きい（網膜の上に投影される像が大きい）
- ・時間（動き）：視対象の動きが遅い（視対象を見る時間が長い）

注1）輝度は、今日の授業の内容を参照。色相や彩度は、先週の授業の内容を参照

注2）教科書 p. 8 では、明視に影響与える5つの条件として、明るさ、対比、色、大きさ、時間（動き）の5つを挙げ、4つの条件の際には、「時間（動き）」は除く、としているが、色を除く場合もあるので、注意が必要である。

(3) 反応性

(4) 目が感じる光→教科書 p. 9 の下の方を参照

**2** 光をどのように数字で捉えるか ←大切なのは、お話の流れ

(1) 基本の物理量

念のため、詳しく書くと、

光束：物理量である放射束を標準比視感度という人間の感覚で重み付けしたもの

参考) 60W の白熱電球からはおおよそ 800 [lm] (ルーメン) 程度の光束が射出される。

⇒この後で、使う分類

┌光を出す側—————┐点光源 (例：豆電球)

└光を受ける側          └面光源 (例：教室などの蛍光灯 (照明器具))

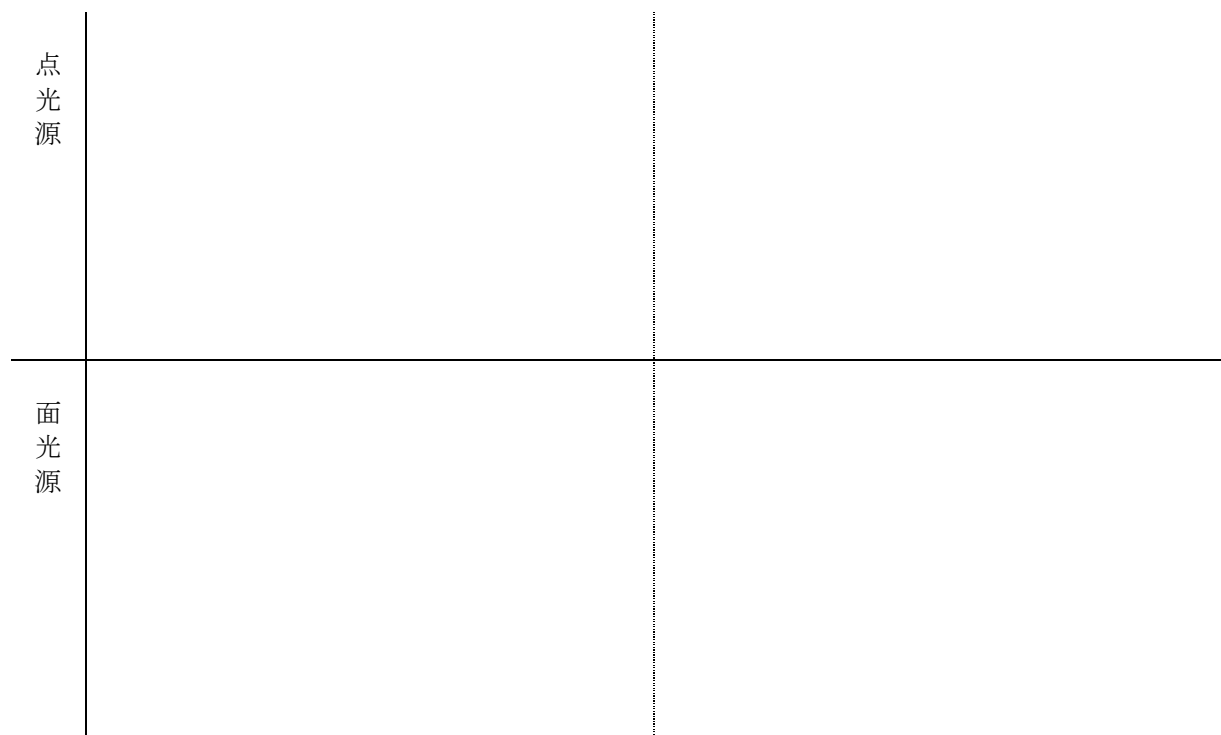
(2) 光束を受ける側 →受ける時だけ特別に考える (簡単)

(3) 光束を出す側 = (難しめ)

ところが, **重要!!**

(4) 光源が発する光束の密度 ←照明器具は見る方向によってまぶしさが違うことを思い出そう (出す光束は同じなのに・・・)

※点はどこから見ても面積は同じ (≡面積ゼロ) ⇔面は見る方向で面積が変わる



(補足) 立体での角度 (立体角)

**復習** 平面の角度 (平面角) の問題

弧度 (平面角) : 半径 1 の円を考えたときの円弧上の部分長さ。単位は, ラジアン [rad]

$$[\text{弧度}] = [\text{円弧上のある部分の長さ}] / [\text{半径}] \quad \theta = \frac{l}{r}$$

→  $180^\circ = \pi \text{ rad}$ ,  $360^\circ = 2\pi \text{ rad}$

→→ 円弧が長いと角度も大きい, 円弧が短いと角度も小さい

⇒ 立体での角度は,

単位は, ステラジアン [sr] → 全球の場合 :  $4\pi \text{ sr}$ , 半球の場合 :  $2\pi \text{ sr}$

(5) 光束を出す側のまとめ **重要!! (今日のまとめ)** 2つの視点で考える!

	①量	②効率
点光源	どのくらいのエネルギーが出ているか?	どのくらいの密度で出ているか? どのくらいの広がりか? どのくらいのまとまりか?
面光源		

(6) 光束を出す側と受ける側の関係

→照度と輝度の関係 (ただし, 特別なときのみ。難しい。)

照度と輝度には, 次のような関係がある。

$$\left[ \text{ } \right] = \left[ \text{ } \right] \times \left[ \text{ } \right] \div \pi \quad \langle 3 \rangle$$

ただし,

均等拡散面: 全ての方向からの \_\_\_\_\_ が同じ, 理想的な面。さらに, 反射率や透過率が 1 の理想的な面を完全拡散面という。

(補足) 輝度対比: 明るさの対比に関する指標

→視対象より周囲の輝度が低い場合には視力がそれほど低下しないが, 高い場合には著しく低下する。

$$C = \frac{L_b - L_d}{L_b} \quad (L_b > L_d) \quad \langle 4 \rangle$$

ここで,

$C$ : 輝度対比 [N. D.]

$L_b$ : 明るい方の面の輝度 [ $\text{lm}/(\text{m}^2 \cdot \text{sr})$ ] もしくは [ $\text{cd}/\text{m}^2$ ]

$L_d$ : 暗い方の面の輝度 [ $\text{lm}/(\text{m}^2 \cdot \text{sr})$ ] もしくは [ $\text{cd}/\text{m}^2$ ]

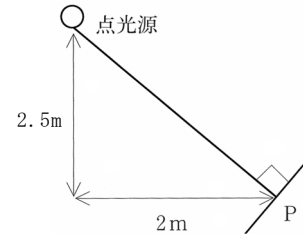
【参考文献】(順に, タイトル, 編著者名, 出版社, 発行年月, 価格, ISBN。[] 内は熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報)

[1] 『大学課程 照明工学 (新版)』(照明学会編, オーム社, 1997年 1 月, ¥2,800+税, ISBN: 4-274-13080-0) [和書 (2 F), 545||Sh 96, 0000308267]

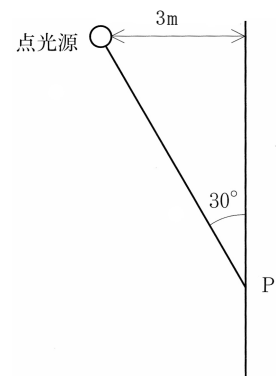
→改訂版あり『照明工学』(照明学会編, オーム社, 2012年 9 月, ¥2,700+税, ISBN: 978-4-274-21261-1) [和書 (2 F), 545||Sh 96, 0000352919]

学年：\_\_\_\_\_ 学籍番号：\_\_\_\_\_ 名前：\_\_\_\_\_

- 1) 右図のような配光が一様な点光源による点 P における法線面照度を求めよ。ただし、光度  $I=1,000\text{cd}$  とする。



- 2) 右図のような配光が一様な点光源による点 P における照度を求めよ。ただし、光度  $I=1,000\text{cd}$  とする。



- 3) 点光源から 2m での照度  $E_2$  が  $750\text{lx}$  のとき、1m, 3m の位置での照度  $E_1$ ,  $E_3$  を求めよ。

